II. 洗顔クリーム

洗顔クリームと呼ばれるものは，きわめて多種類であるが，次ぎのように2種に大別できる．

1)　使用に際し湯か水を併用するもの．

2)　湯や水を使用しないもの（拭き取る）．

前者に属するものとしては，　1）石鹸をクリーム状にしたもの，　2）洗粉をペースト状にしたものがあり，後者に属するものとしては，　1）クレンジングクリーム，　2）油分の多いコールドクリームなどがある．

後者のものは項を改めて述べ，ここでは前者の系統だけについて述べることにする．

この系統の洗顔クリームは，これを顔に塗って，湯か水で洗い去る．また手の洗浄にも用いられる．

1.　石鹸をクリーム状にしたもの

この形のものは透明または半透明のもの，乳濁したものなどがある．いずれも泡立ちの良いものがよしとせられる．乳濁したものは純白色のものが賞せられる．

透明または半透明のものは，液体脂肪酸のカリ石鹸で，淡色で堅くなく，脆くなくて粘らず，水分を分離しないものが良品である．カリウムの一部をナトリウムで置き代えると不透明になる．原料油脂は大豆油，アマニ油，コーン油，棉実油，オリーブ油，菜種油，落花生油，オレイン酸，ロジンなどが用いられ，硬化油や牛脂などの固体脂肪酸の多い油脂を用いると不透明になる．これらの原料油を水酸化カリウム液で鹸化する．多く半煮沸法を行い，製品は塩析を行わない膠石鹸である．アルカリ液は通常始めは 15° Bé 位から 25～30° Bé 位にまで，次第に濃度を増し，2～3段に別けて注加して鹸化する．製品は遊離アルカリを含んでいてはならない．また鹸化不完全の時は，石鹸膠は冷却後に不透明で，柔軟である．

1)　例

大豆油	33分	グリセリン	20分
ロジン	10〃	寒　天	0.5～1.0〃
水酸化カリウム	8.5～8.7〃	パラオキシ安息香酸エステル	0.1〃
水	80〃		

大豆油とロジンを混合熔融させ，アルカリを水の一部に溶かしたものを，かきまぜながら加えて鹸化させ，この石鹸膠に，残りの水とグリセリンと寒天を加熱溶解させた液を，混和し，香料を適宜加えて，冷却させる．

2)　**薬局方カリ石鹸**

植物油	430 *g*	アルコール	50 *cc*
水酸化カリウム液(15%)	580 *cc*	蒸留水	全量　1,000 *g*

植物油を磁血にとり，水浴上で加温しつつかきまぜながら，これに水酸化カリウム液とアルコールをまぜ，この一部分をアルコールに溶かし，澄明となった時，更に蒸発するか又は水を加えて 1,000 *g* とする．

乳濁した 石鹸クリームは白色銀光色，あるいは真珠様光沢をもったものが賞せられる．これは固体脂肪酸を多く含むもののカリ石鹸で，カリウムの一部をナトリウムで置き代えてもよい．原料としては牛脂，豚脂，ヤシ油，棉実油，落花生油，ステアリン酸などが用いられる．ステアリン酸，豚脂からの製品は銀白色である．その製法はヒゲソリ石鹸に似ている．

処 方 例

(1)	1.	豚　脂	400 *g*	3.	アルコール　40 *g*
	2.	水酸化カリウム液17.5°Bé	500〃	4.	グリセリン　150〃

1 を熔融させ，これに2,3,4の混合液をよくかきまぜながら加えて，よく鹸化し，冷やしながらかきまぜて香料を加える，なおかきまぜながら冷却する．

(2)	1.	ステアリン酸	20%	5.	水酸化カリウム液42°Bé	13%
	2.	ヤシ油	6.5〃	6.	水酸化ナトリウム液42°Bé	1.5〃
	3.	トリエタノールアミン・ステアレート	5〃	7.	水	47.5〃
	4.	グリセリン	6〃	8.	香　料	0.5〃

1 の半量と2を混合熔融し，これに5，6と7の1部（5，6と同量）の混